

地域畜産共進会、農業まつりでの審査が終わりました

普及指導課では例年、市町やJ A、市町畜産会が主催する地域共進会において各種家畜や畜産物の審査、審査補助を年間通じて行っています（15市町のべ38部門）。

乳牛では、ホルスタイン種の雌を対象に体形を中心とした審査（8～11月14市町）と育成管理審査（年2～5回4市）を行いました。体形等審査は育成から成畜を月齢別に5～10に部類分けして集合や巡回で審査し、育成管理は1年数回巡回により特定の育成牛を追跡して発育と農場の管理技術を審査しました。

肉牛では、黒毛和種と交雑種（和牛とホルスタインの交雑）肥育牛の体形等審査（9～10月2市）、育成管理審査（年3回1市）、枝肉審査（12月1地域）を行いました。体形等審査は品種、月齢、性別に区分け集合で審査し、育成管理審査は同様に区分けし審査しました。枝肉審査は肥育牛を食肉市場でと畜後に枝肉で品種性別に分け審査を行いました。

豚では、種豚、肥育豚の体形等審査（9～10月3市）、枝肉審査（6月2市）を行いました。種豚は品種特性、発育、体形を、純粋種（雄雌）、交雑種雌に区分けして審査しました。肉豚は出荷直前の豚を生体で産肉性を審査しました。枝肉審査は食肉市場でと畜後の枝肉で審査を行いました。

採卵鶏では、鶏卵1パック（6～10個）の鶏卵外観と割卵した卵黄、卵白等内容物を比較し審査しました（5～11月10市町）。このほか、8月に1市で開催された畜舎環境対策共進会を審査しました。

県内の畜産農家戸数は、毎年少なくなっておりますが、各畜産農家は、県民に安全で安心な美味しい畜産物を提供するため、たゆまぬ努力をされ、その結果として家畜の能力、畜産物は着実に向上しています。



写真：左から、乳牛体形等審査、肉牛体形等審査、豚枝肉審査、鶏卵審査

備考

審査と同時に、出品された家畜の能力や農場の飼養環境や管理状況等を推測し、農場の目的にあった血統の選択、飼養環境の整備や管理技術の改善など、その後の支援に結びつける活動をおこなっています。